

「総合人間論」プロジェクト活動（2020）

A Project Report of the General Aspects on Humanities in 2020

梶山人間学研究センター主任研究員
梶山女学園大学人間関係学部教授

杉藤 重信
Shigenobu Sugito

はじめに

2020年度は年初より始まったコロナ禍により異例続きの一年であった。

本プロジェクトでは、前年度に引き続き、「梶山多様性研究会」（以下、多様性研究会）と連携してプロジェクト活動を行い、少なくとも年4回の研究会を開催する予定であった。しかし、本年初からのコロナ禍は収束を見せることなく、蔓延はさらに拡大して大わらわとなった。4月は学内の授業が休講（前年度の卒業式も中止となった）となり、5月の連休明けから新学期がスタートした。さらに、前期は遠隔授業が原則となったので、結果として、報告者も含めて、教員は対応に謀殺されることになった。

本年度は、8月28日の遠隔会議システムのZoomを用いた第11回多様性研究会のみ開催できた。その際の相互了解では、遠隔であれば、今年度は開催可能ではないかとのことではあったが、実のところ、その後、開催計画は実行に至らず、報告の締め切り（2021年1月）に至ったというのが現状である。

今年度のプロジェクト研究報告としては、これまでわずかに1回のみ開催した「梶山多様性研究会」に加えて、梶山人間学研究センターの「人間講座」および「梶山フォーラム」

開催の顛末もあわせて報告しておきたい。「人間講座」および「梶山フォーラム」のテーマは、「総合人間論」のテーマと深く関わりがあると思われるからである。

また、梶山人間学研究センターのWebページをオンデマンド映像配信に合わせて改修したので、その内容についても合わせて報告して記録にとどめておきたい。

なお、以下の多様性研究会の記録は報告者のメモに基づいており、内容に関する文責は報告者にある。

「梶山多様性研究会」の記録

「梶山多様性研究会」は2017年11月に発足し、2017年度には3回、2018年度は4回、2019年度は4回を開催し、今回の開催で11回目となる。今回の多様性研究会は、8月28日に遠隔会議システムのZoomを用いて開催された。

第11回 梶山多様性研究会

開催日時：2020年8月28日（金）17:30～

報告者：米田公則（梶山女学園大学文化情報学部）

タイトル：「地域と観光：地域観光の可能性と課題、タイ国・メイカンボン村のCBT（Community Based Tourism）研究から」

発表者は、タイ国において地域社会学・観光社会学領域の調査研究を実施しており、今回はその概要についての報告となる。

タイ国だけではないが、世界各地はグローバル化の進行とともに、地域レベルの格差が拡大している。とくに、都市と農村の格差の増大が目につく状況にある。発表者は、かねてより、「新しい地域づくり」について、研究を進めていたが、その中で、ツーリズムの重要性に着眼し、観光立国とはいうものの、経済だけに焦点を当てるのではなく、途上国における地域づくりに関わるコミュニティベースツーリズム(CBT: Community Based Tourism)の状況を対象にして「地域は観光をコントロールすることができるのか」との問題意識をもち、地域経済への貢献についてメリットとデメリットに焦点を当てて研究を進めてきた。

日本においても、観光庁は、観光は成長部門であって、地域活性化、雇用機会の増大につながるものと位置づけている。とはいえ、観光について、すでに、ニューツーリズムやオルタナティブツーリズム、サステナブルツーリズムなどといった新たな観光に焦点が当てられている現状にも関わらず、観光庁の視点は、経済偏重で、地域の視点がなく、持続可能性の視点の欠如や従来のマストツーリズムから離れることができないでいる。

そこで、CBTである。CBTとは環境的、社会的、文化的持続性を考慮したツーリズムであって、地域公共財としての自然・文化・生活、自然資源、文化資源を活用することを目指す「コミュニティによるツーリズム」である。

タイ国のCBTでは、チェンマイ地方のメ

イカンボン村におけるコミュニティツーリズムがタイ国の観光アワード最高賞を受賞するなど、先進的な試みと位置づけられている。メイカンボン村はタイ族の村であって、少数民族の文化を観光対象としておらず、むしろ、アグリツーリズムの範疇になる。森林管理も伴う自然そのものもまた観光資源となっている。また、観光情報の提供についてICTの利用が進んでいることも特徴的と言える。ただし、結果としては、ICT活用が可能な世帯による宿泊ビジネスへの進出などがあり、地域としてのまとまりをどのように維持するかが課題となっている。その他の課題としては、持続可能性を追求しつつ、観光客のニーズをいかに受け入れていくかを指摘することができる。

梶山人間学研究センターの本年度の活動

【経緯】

梶山人間学研究センター（以下、センターと略称する）では、毎年度4回の「人間講座」および、年1回の「梶山フォーラム」を開催している。年度当初の計画では、本年度も第1回の「人間講座」を5月に、第2回を7月、第3回を9月、第4回を10月、「梶山フォーラム」を12月に、それぞれ開催のスケジュールを組んでいた。しかし、公開講座であるという事情から、コロナ禍にあっては聴衆を学内にお招きするわけにもいかず、当面5月と7月の開催は中止し、状況によって開催方法は未定とするが、再開は9月以降と決めたのは、4月13日の打ち合わせにおいてであった。

業務として次に着手したのは、Webページの改修であった。それまでの課題としては、(1)「新着情報」などの更新に関して技

術的な問題があったので、より容易な方法に変更すること、(2)「年誌」のWebを通しての閲覧が利便性にかけていたこと、同時に、図書館リポジトリを設定することがあげられていたこともあり、急遽着手することとなった。

8月3日の打ち合わせでは、センターのWebページの改修について経過報告するとともに、「人間講座」および「梶山フォーラム」の開催方法について、Webページを用いたオンデマンド映像形式での公開に切り替えること、関連して、Webページに新たにオンデマンド映像配信のためのページを設けることを追加した。

また本年度の「人間講座」は、3回の開催とし、ただし、今年度の開催方法を変更したことと、トピックの概説を兼ねて、「人間講座」とは銘打たず、「イントロダクション講座」として9月16日に公開することとした。この講座は、Webページ改修に関連した広報の流れについておよび、担当者の公開方法についての習熟を兼ねて実施するものとした。

なお、「人間講座」および「梶山フォーラム」のオンデマンド映像配信の流れとしては、以下のように進めることとした。

1. Webページの「新着情報」ページ内の「限定公開」ページに開催情報が記載された旨を告知する。
2. 「限定公開」ページに、講座のタイトル、講演者氏名、概要等を掲載し、映像期間になるとオンデマンド映像視聴のためのリンクが有効になる旨を告知する。
3. オンデマンド映像収録のためにZoom

を用い、講演者と司会者（本稿の報告者）のオンライン会議形式の講演および総合討論を録画し、YouTubeに「限定公開」（URLを知っているものだけが視聴可能）としてアップロードする。長時間1本の映像では視聴者の負担が大きいため、情報に基づき、30分ほどで区切り、3本程度に分割する。それぞれのYouTubeのリンク先を記載する。

4. 公開日に、「限定公開」ページのリンクを有効化し、「新着情報」ページにその旨を告知する。
5. 公開期限が終了すると、「限定公開」ページのリンクを無効化し、「新着情報」ページにその旨を告知する。

【人間講座および梶山フォーラム】

本年度の「イントロダクション講座」および「人間講座」は、以下のように実施した。

・「イントロダクション講座」

公開期間：2020年9月16日（水）

13時～19日（土）20時まで

講師：杉藤重信（本報告者）

タイトル：「食と新型コロナ」

・第1回「人間講座」

公開期間：2020年9月25日（金）

13時～26日（土）20時

講師：磯野真穂（医療人類学者^{*1}）

タイトル：「健康を追い求める私たちは幸せになれるのか？」^{*2}

司会：杉藤重信

・第2回「人間講座」

公開期間：2020年10月16日（金）

13時～10月18日（日）20時

講師：黒田由彦（本学文化情報学部教授）、
三浦隆宏（本学人間関係学部准教授）、杉藤重信

タイトル：「新型コロナと人間」

司会：杉藤重信

・第3回「人間講座」

公開期間：2020年10月30日（金）

13時～11月1日（日）20時

講師：湯澤規子

（法政大学人間環境学部教授）

タイトル：「食ること、はたらくこと、
生きること―日米比較社会史から考える「私」の物語―」

司会：杉藤重信

本年度の「梶山フォーラム」は以下のよう
に実施した。

・第42回「梶山フォーラム」

総合タイトル：「『ダイエット』を歴史と文
化から再考する」

公開期間：2020年12月4日（金）

13時～12月6日（日）20時

講師：磯野真穂（医療人類学者^{*1}）

講演タイトル：「痩せたい気持ちの文化人
類学」

コメンテーター：湯澤規子

（法政大学人間環境学部教授）

司会：杉藤重信

※1 講演時は「独立研究者」とご紹介しておりましたが「医療人類学者」に変更しております。

※2 講演時のタイトルは「健康を追い求める私たちは健康になれるのか？」でしたが、本報告書のタイトルは「健康を追い求める私たちは幸せになれるのか？」に改めています。

【Webページ改修のポイント】

1. 「新着情報」および「限定公開」ページの更新について、所定のID/PassをもつユーザがMovableTypeを使用して、内容の更新を適宜できるようにした。
2. 「年誌」の公開は従来全体を一括してPDF形式でダウンロードさせるというものであったが、これを、すべての年誌情報を目次に基づき、項目ごとにブラウザ上で閲覧できるように変更し、必要に応じてダウンロードができるようにした。また、図書館リポジトリとの連携については、「年誌」のトップページに、「年誌」に掲載されている項目を図書館リポジトリから検索・表示できるリンクを設けた。

むすびにかえて

今年度は異例続きではあったが、コロナ禍の行く末も全く読めない現状で、次年度も同様の流れになる可能性が高いのではないかとと思われる。幸い、Zoomの遠隔会議システムを研究会のために利用すること、また、オンデマンド・映像配信の手法についてもノウハウを学べたので、同様の事態が起きてもそれなりの対応ができると考えている。今後とも、本プロジェクトの内容を深めていきたい。